「広島学院創立一年目の思い出」

門脇　佳吉　（理科教諭　1956～1957）

昭和 31 年 4 月 7 日 1 期生 107 人の新入生が入学してきた。みんな童顔の少年たちだった。シュワイツェル校長を始め、先生がた総勢 9 人が、新しい学校を作るんだという意気込みで、打って一丸となって頑張った。その意気込みはすごかった。校長はドイツ魂と武士道精神とを併せ持っていて、生徒たちと先生方を引っ張って行った。放課後には、校長自らブルドーザーを運転して、校庭作りに専念した。



新入生は、校長と先生がたの意気込みに応えて、新しい学校づくりに励んでくれた。中間体操で裸で体操することも厭わなかった。よく勉強してくれたし、厳しい校則をよく守ってくれた。登校・下校の決められた通学路をよく守った。電車に乗っても、席に座らなかった。学院の生徒の行儀良さはたちまち評判になった。1 期生の学力は、今の学院の生徒の学力に比べれば、劣っていたかもしれないが、礼儀正しさと規律を守ることと、新しい学校を自分たちが建てるんだという意気込みと愛校心では大いに勝っていた。

校長と先生がたと新入生 107 人とが、一緒になって広島学院の精神的基礎を築いた、と言ってよいのではないかと思う。

広島学院の半世紀　広島学院創立 50 周年記念誌』より

写真　広島学院校史資料室保管